

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

自らの個性・能力を磨き、激動する社会の変化に対応できる活力あふれる人材を育成する学校
1 主体的に学ぶ姿勢、学ぶ喜びや探究心を育み、生徒の希望する進路実現を図る
2 人権意識、国際感覚を身につけ、豊かな人間性を育む
3 教職員が一体となって教育活動の充実を図り地域から信頼される学校づくり

2 中期的目標

1 授業の充実を図り、主体的に学ぶ姿勢、学ぶ喜びや探究心を育む (1) 授業の充実 ア ICT活用、アクティブ・ラーニングの充実の推進 イ 教員間の授業研究による授業改善の推進 ウ 論理的な思考を深める機会や意見を述べる機会を設定し、学力の充実を図る エ 一人ひとりの教育的ニーズに対応した支援の充実 ※ 学校教育自己診断「論理的に文章をまとめる力を身につけることができる」の肯定的評価を令和5年度には75%以上にする (R1:69% R2:72%) ※ 学校教育自己診断「授業には意見を述べたり深く考える機会がある」の肯定的評価を令和5年度には80%以上にする (R1:76% R2:78%) ※ 学校教育自己診断「学習時間を確保するよう努力している」を令和5年には80%以上にする (H30:60% R1:72% R2:69%) (2) 希望する進路の実現を図る ア「総合的な探究の時間」においてSDGsの課題解決に向けた探究活動を行う イ 生徒の多様な進路選択に応えるキャリアガイダンス（進路指導）の充実 ウ 進路に関する情報提供の充実 エ 資格取得や各種コンクールへの応募などの推進 オ 家庭学習の充実（勉学と部活動の両立） カ 英語4技能（特に聞く力、話す力）の充実を図る ※ 国公立大学、有名私立大学（関関同立）の現役進学率を令和5年度に35%以上にする (H29:36% H30:29% R1:23%) ※ 学校教育自己診断「進路についてのアドバイスをよくしてくれる」の肯定的評価を令和5年度85%以上を維持する (H30:78% R1:83% R2:85%)
2 豊かな人間性の育成 (1) 人権感覚を育成し、他者理解のできる真のリーダーとしての資質を育む ア 情報リテラシーを高め、SNS等によるいじめやハラスメントを防止する (2) 全ての教育活動においてSDGsを意識し、国際感覚を備えた人材の育成を図る (3) 部活動や学校行事の充実を図り、より一層、達成感や充実感を高める ※ 学校教育自己診断の「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定的評価を令和5年度には95%に回復させる (H30:82% R1:86% R2:88%) ※ 学校教育自己診断の「人権について学ぶ機会がある」の令和5年度に肯定的評価90%を維持する (H30:84% R1:90% R2:93%) ※ 部活動加入率90%の維持 (H29:92% H30:91% R1:90%) 学校行事への満足度90%以上を維持する (H30:93% R1:95% R2:91%)
3 地域から信頼される学校づくり (1) 部活動等により地域連携活動を推進する (2) 広報活動を充実させ、学校の教育活動をこまめに発信する (3) 業務の精選と学校組織（教員体制、運営方法等）の再構築により、働き方改革を推進する (4) 安全・安心な学校生活が送れるよう危機管理を行う ア 新型コロナ感染防止対策を徹底し、感染防止に努める イ 食物アレルギー事故防止のために組織的に対応する ※ 学校教育自己診断の保護者の情報発信についての満足度の肯定的評価を令和5年度に90%にする (H30:81% R1:79% R2:89%) ※ 学校教育自己診断の「教員間の相互理解、信頼関係により教育活動が行われている」の肯定的評価を令和5年度に80%以上にする (R1:64% R2:77%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和3年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
1) コロナ禍ではありながら、なんとか学校行事が行えたこともあり、学校行事や部活動に楽しく参加できているなどの生徒回答は肯定的意見が90%を上回り、生徒のニーズに応えた形となった。 2) 「地域と連携した特色ある取り組みがある」（前年比生徒：-9%、保護者：-5%）「国際理解を深める取り組みがある」（前年比生徒：-8%、保護者：-5%）と評価が低下した。コロナ禍で実施が困難であったことが影響している。「学校行事や授業参観への参加」（保護者：-15%）も、同様に2年連続低下した。 3) 少人数展開授業について、理解度が上がったが60%（前年比-11%）、学習意欲があった55%（前年比-11%）と評価が低下している。少人数展開を活かした生徒のニーズに応じた授業展開の工夫が課題である 4) 昨年度大きく評価が下がった進路情報の提供についてはこまめなメールマガジンに配信により、回復することができた。（R2:64%⇒R3:75%）	第1回（6月8日 紙面開催） 1) 進学実績が上昇している点は興味深い。生徒の頑張りもある先生方のアドバイスの影響も大きい。大学入試の易化の要素もある。 2) GIGAスクール構想に向けて、ICTを活用した授業づくりに期待する。 3) 観点別評価については客観的、具体的な「評価基準」の精度とその評価方法が「肝」となる。本年度の試行、アウトプットに期待したい。 第2回（11月22日） 1) 以前に授業見学した時に比べ、はるかにICT活用が進んでいて驚いた。タブレットの活用も進んでいる。 2) 今後の観点別評価については、年度当初に3つの観点を明確にし、学ぶことが楽しいと思える授業づくりや課題の設定が求められる。 第3回（3月18日） 学校教育自己診断の生徒、保護者からの回答が肯定的であり、学校生活に満足していることがうかがえる。コロナ禍の中、教員間のコミュニケーションについての課題も設けられるので、今後検討が必要である。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
1 授業の充実を図り、主体的に学ぶ姿勢、学ぶ喜びや探究心を育む	(1) 授業の充実 ア I C Tを活用した授業の充実 イ 教員間の授業研究による授業改善 ウ 論理的な思考力を深める機会の充実 エ 一人ひとりの教育的ニーズへの対応 (2) 進路の実現 ア S D G s をテーマとした探究学習の実施 イ 進路指導の充実 ウ 進路の情報提供の充実 エ 資格取得等の推進 オ 家庭学習の充実 カ 英語4技能の充実	ア・I C T活用をテーマとして授業公開を行い、活用の工夫について協議する ・オンライン授業委員会による授業研修を行い、教員の授業力を高める イ 年間2回の授業見学週間に相互授業見学を行い、授業改善を行う ウ 授業中や考査問題に知識を与えるだけでなく、思考力を問う課題を課して、生徒が深く思考する学習を実践する エ 長期休業期間中に補講習を実施し、学習支援を行う ア 総合的な探究の時間および修学旅行において、S D G s をテーマとした探究学習を行う イ 進路指導計画に基づき、計画的に進路指導を行う ウ メルマガ、進路だより、HP等を通してこまめに進路情報を発信する エ 英語外部検定等の資格取得のための実力把握テストを実施する(1,2年) オ 家庭学習につながる課題の設定を工夫する カ 英語の授業において、スピーキング、リスニングのテストを実施し、実力把握を行う	各教科年間1回実施 年間2回以上実施 最低2人以上の授業見学を実施 各学年、9教科全てで実施 夏期および冬期休業中に補講習期間を設定し実施 学習成果発表会の実施 [1回] 進路指導の生徒満足度維持 [87%] 進路情報発信への保護者満足度75%以上 [64%] 実力把握テストの実施(1回) [0回] 外部学力調査の学習時間 2年11月 平均90分以上 [88分] R2実施状況の維持 [1年各2回、2年スピーチコンテスト1回、3年リスニングテスト2回]	(1) ア) 観点別学習評価の試行に伴い、各教科で授業公開を行った。(11月に1回)(○) オンライン委員会による研修は2学期に2回、密を避けるために学年を分けて実施した。(○) イ) コロナの影響で実施は11月の1回のみとなったが、相互に授業見学を行うとともに、各教員が観点別評価を意識した授業実践を行い、報告書を提出した。(○) ウ) 考査問題も全ての学年、教科で観点別評価を意識した出題ができた。(○) エ) 補講習は計画的に実施できた。(○) (2) ア) 1年をとおしてSDGsをテーマに探究学習を重ねてきた。成果発表会は3学期に実施予定(○) イ) 進路指導については生徒、保護者ともこまめな情報発信に努めた結果、進路指導への生徒の肯定的評価(87⇒91%)、保護者の情報発信への肯定的評価は(64⇒75%)と期待に副う形となった。(○) エ) 英検IBTを1,2年対象に実施した(○) カ) 家庭学習時間は64分に留まり、十分とはいえない状況。学習へのモチベーションを高める学習機会の設定や工夫が必要。(△) カ) 英語力を高める授業の取り組みとして、スピーキングテスト、リスニングテスト、スピーチコンテストを実施。実施に向けての準備にはかなりの労力が必要であるが、成果は大きいと感じている。(○)
	2 豊かな人間性の育成	人権教育計画の基づき各学年で人権学習を行う 教員研修として人権研修を実施する ・情報の授業の中で情報リテラシーについて指導する ・SNSの課題について外部講師による講演会を1年生の早期に実施する 各教科やHR、学校行事の中でSDGsを意識した教育活動を行う ・部活動方針に基づき活動を行う ・生徒会活動を活性化し、生徒主体の学校行事を充実させる	各学年1回人権学習の実施 職員研修の実施(1回) 講演会の実施(1回) [新規]SDGsへの生徒の課題意識の深まり70%以上 ノークラブデーの確保90%以上[89%] 学校行事(体育祭、文化祭)への満足度の維持[94%]	(1) 人権教育計画に基づき、各学年で人権学習を実施できた。(○) 職員研修は2月に2回めの研修を実施する予定(◎) SNSをめぐる人権問題は学校の大きな課題である。今年も4月の早期に実施することができた。(○) (2) SDGsを意識した学習は様々な教育活動で意識して実施されており、生徒の課題意識の高揚につながっている。(76⇒83%)(◎) (3) 学校行事への満足度は高く、生徒のニーズに応えるものになっている(94⇒97%)(◎) ノークラブデーは100%が当然と思われるが87%となっており、課題である。(△)
3 地域から信頼される学校づくり	(1) 地域連携の推進 (2) 広報活動の充実 (3) 働き方改革の推進 (4) 危機管理の充実	コロナ禍にあり難しいが、地域住民の方や地域の諸学校と連携した取り組みを実施する ・スマートフォンのHP画面を改修し、見やすいHPに改善する ・学校説明会の内容を見直し、実施する ・分掌会議をできるだけ時間割内に配置し、放課後のゆとりの時間を作る ・削除できる業務について検討し、業務の効率化を図る ・学期に1回職員による安全点検を行い、施設管理を行う ・緊急連絡体制について避難訓練時に確認を行い、必ず機能するよう準備する ・食物アレルギー対応委員会により生徒の個別情報を管理し対応を行う	1回の実施 HPの改修 年間3回の実施[3回] 学校教育自己診断において、働き方改革についての教員の肯定的意見が6割以上 学期に1回の安全点検の実施 ・緊急連絡フォームの確認の実施 ・食物アレルギー対応委員会の定期開催	コロナ禍にあり実施が難しかったが、支援学校との交流として部活動の様子を収録したDVDを作成した。オンラインで学校を結ぶアイデアなども提案されたので、次年度以降に進めていきたい。(○) HPはスマホ画面の表示を見やすく改修した。(○) 学校説明会については新型コロナウイルスのため8月のオープンスクールは実施できなかったが、11月の見学会は実施できた。1月にも実施予定である。(○) 緊急連絡フォームについては緊急時に機能するよう、フォームへの接続についての確認作業を実施している。食物アレルギー対応委員会は年度当初、校外学習、修学旅行など、行事の機会に必要な応じて実施した。(○)